◆第1章：トップスポーツ組織の事業概要まとめ

【記載内容】 ※以下の設問に対する回答結果を記載。次頁以降に詳細データあり。

＜問1＞ プロフィール（運営形態・法人格有無・監督ポジションなど）
※運営形態区分（企業系・独立／プロ系・大学系）
＜問2＞ 現在の組織体系での設立年

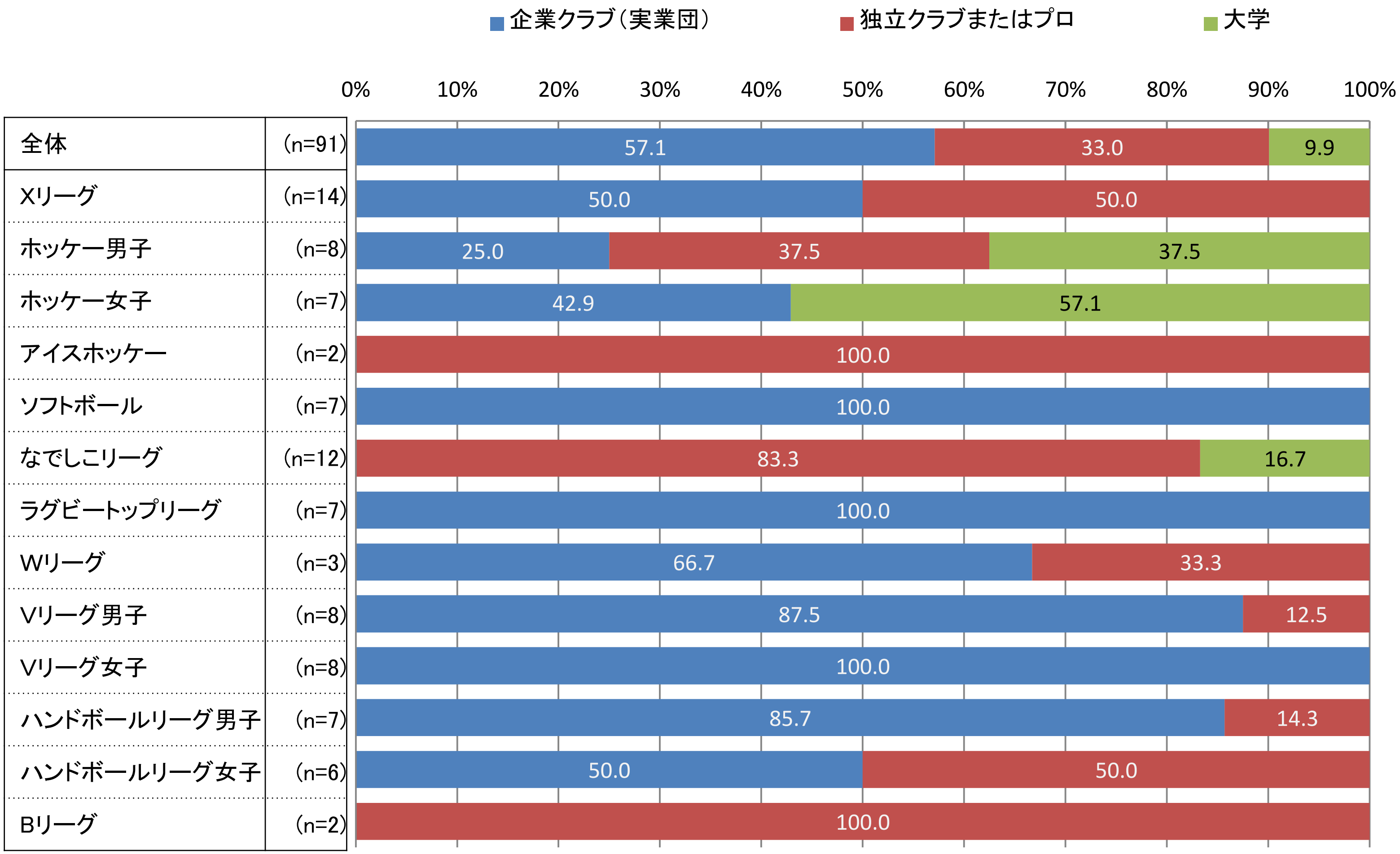
【内容サマリー】

＜問1＞
- 回答組織の運営形態比率は**企業系6割**、**プロ系3割**、**大学系1割**。
- ホッケー男子のみ、３つの事業形態（企業・独立/プロ・大学）が含まれる。
- 大学系クラブの**約8割**が「法人格取得済み」。
- 大学系クラブの**約9割**が「体育会運動部」。

＜問2＞
- **1985年以前に設立**された組織が最も多く約4割である。
- 国内で**企業（実業団）スポーツが盛んだった時代**に設立された組織が多い。

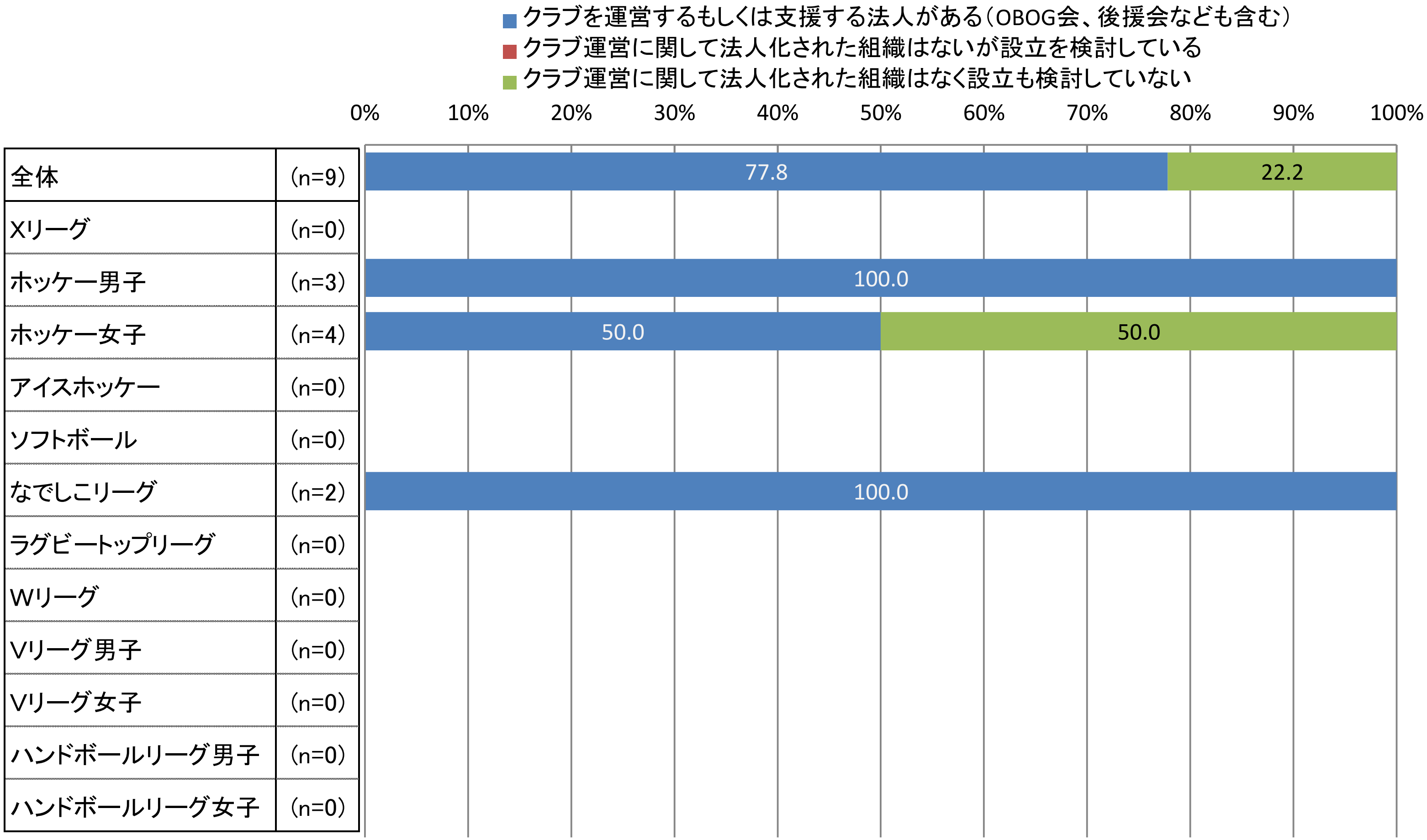
問1.各組織の事業運営形態について

●全体比率では『企業クラブ』が**57.1%**、『独立クラブまたはプロ』が**33.0%**、『大学系』が**9.9%**。
●ホッケー男子のみ、３つの事業形態（企業・独立/プロ・大学）が含まれている。
●ソフトボール、ラグビートップリーグ、Vリーグ女子は『企業クラブ』のみ。アイスホッケー、Bリーグは『独立/プロ』のみ。



問1.大学系クラブの法人格有無について

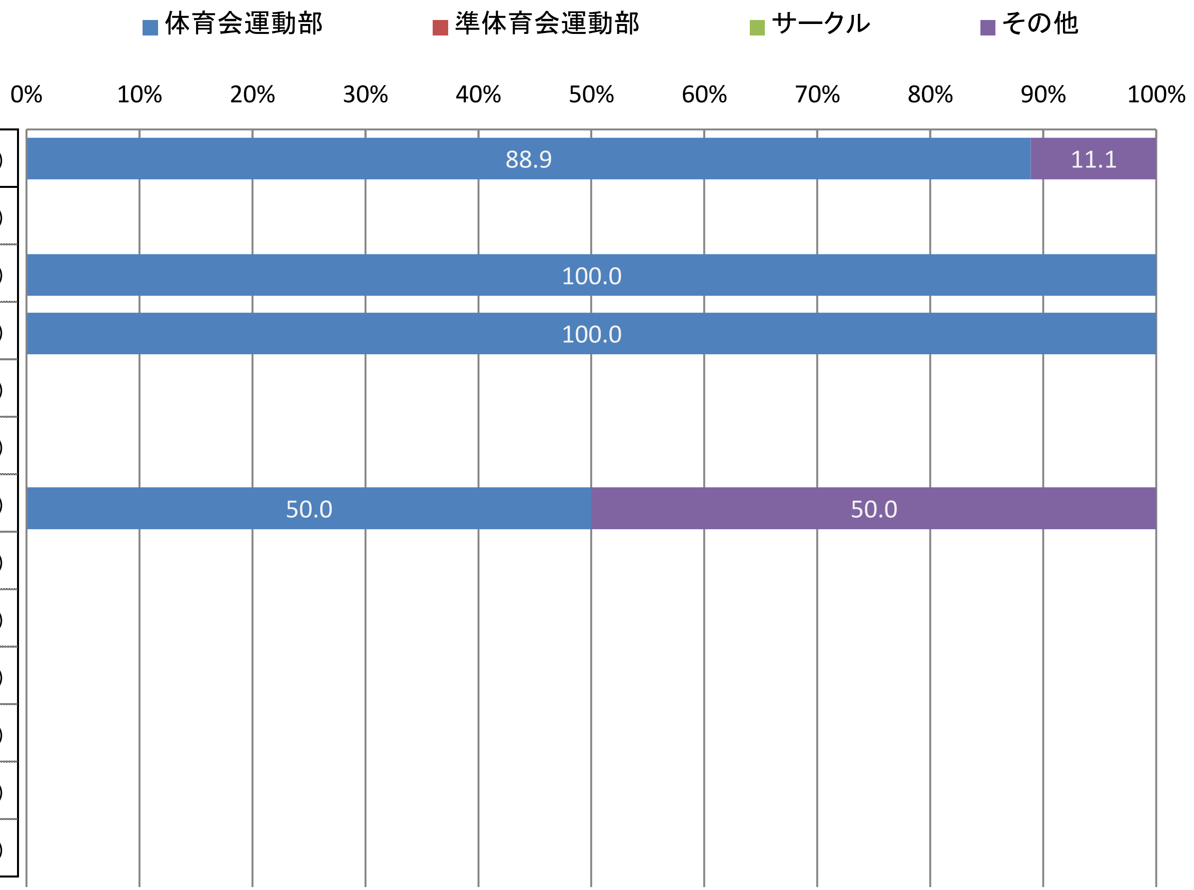
●全体では**77.8%**が『法人格』を取得している。
●ホッケー男子と、なでしこリーグは回答した**全てのクラブ**が『法人格』を取得している。
●ホッケーは、男女間で『法人格』の取得や今後の計画について差がある。



問1.大学系クラブの運営形態について

●全体では**88.9%**が『体育会運動部』であった。
●『準体育会運動部』や『サークル』が運営しているケースは無い。
●ホッケーは男女とも『体育会運動部』が運営している。

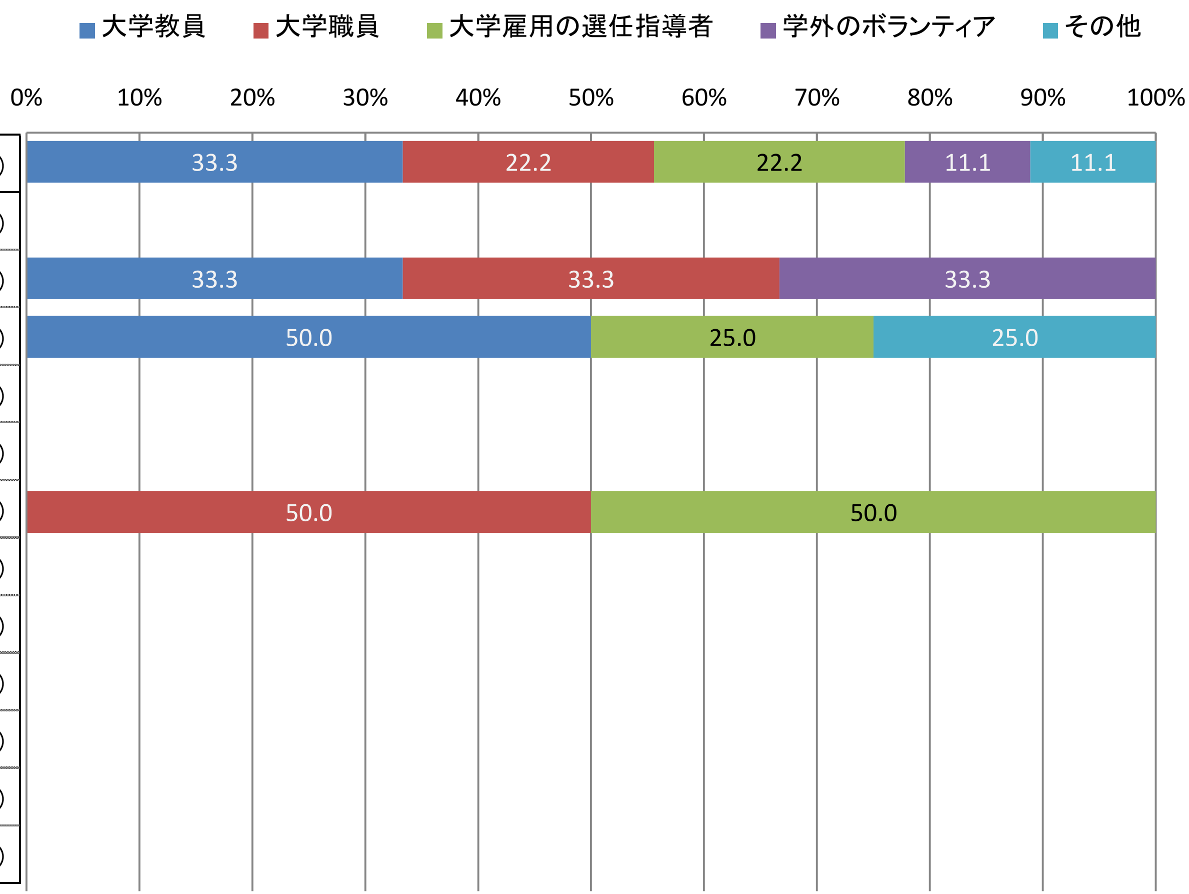
全体	(n=9)
Xリーグ	(n=0)
ホッケー男子	(n=3)
ホッケー女子	(n=4)
アイスホッケー	(n=0)
ソフトボール	(n=0)
なでしこリーグ	(n=2)
ラグビートップリーグ	(n=0)
Wリーグ	(n=0)
Vリーグ男子	(n=0)
Vリーグ女子	(n=0)
ハンドボールリーグ男子	(n=0)
ハンドボールリーグ女子	(n=0)

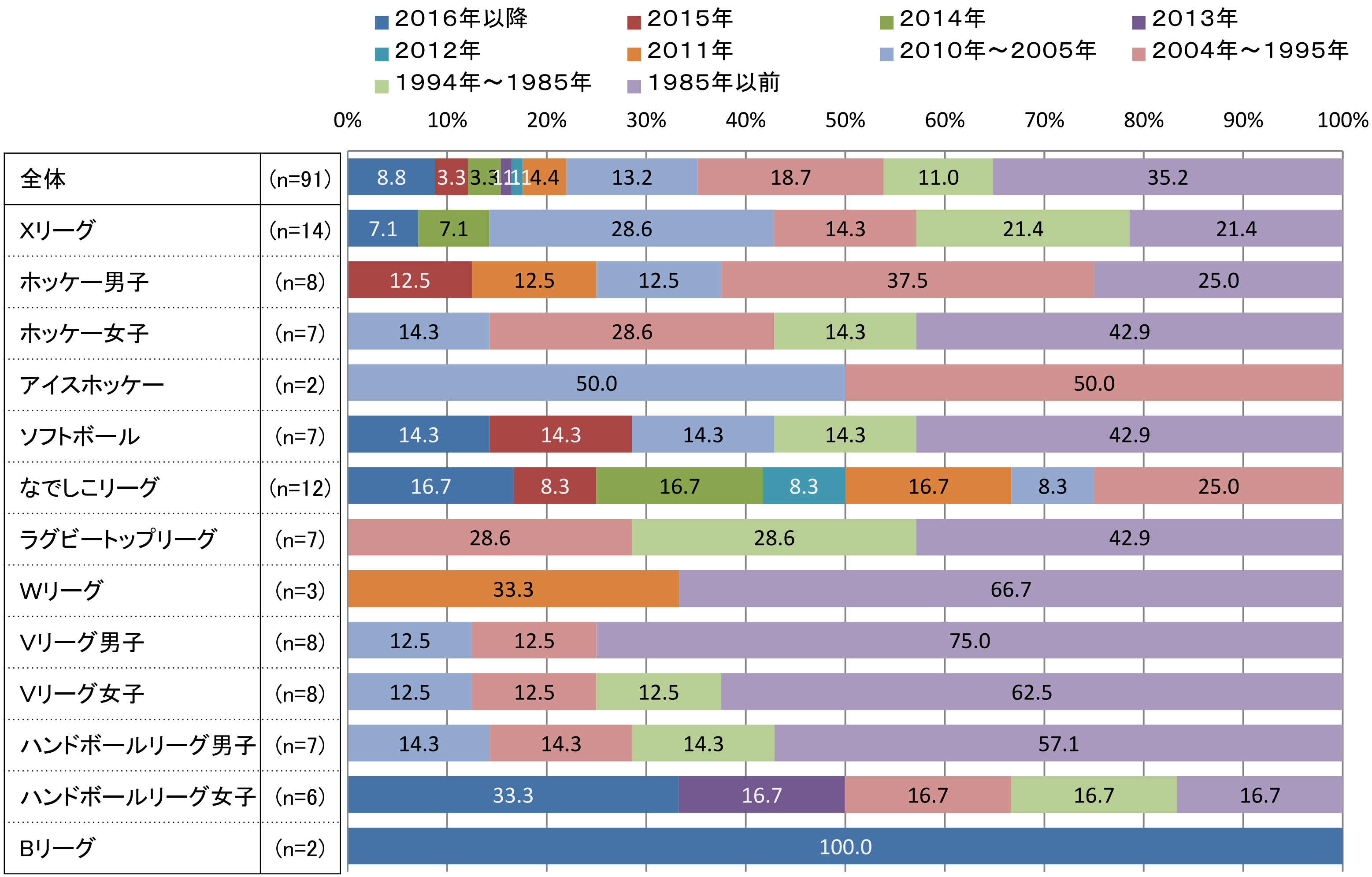


問1.大学系クラブの監督について

●全体平均では**『大学教員』が最も多く**、次いで『大学職員』と『選任指導者』が同率となっている。
●監督は『大学教員』のケースが最も多く**33.3%**。なでしこリーグでは『大学教員』の監督起用は無かった。
●ホッケー男子は『学外のボランティア』が、ホッケー女子と、なでしこリーグは『大学雇用の選任指導者』が監督就任。

全体	(n=9)
Xリーグ	(n=0)
ホッケー男子	(n=3)
ホッケー女子	(n=4)
アイスホッケー	(n=0)
ソフトボール	(n=0)
なでしこリーグ	(n=2)
ラグビートップリーグ	(n=0)
Wリーグ	(n=0)
Vリーグ男子	(n=0)
Vリーグ女子	(n=0)
ハンドボールリーグ男子	(n=0)
ハンドボールリーグ女子	(n=0)



問2.現在の組織体系での設立年は？

●全体平均では**『1985年以前』が最も多く**35.2%であった。
●バレーボール、ハンドボール、女子バスケなど**実業団スポーツが盛んであった昭和時代**に設立されたクラブが多い。
●Jリーグ発足やバブル崩壊後の経済立ち直り時期に設立されたクラブが、ホッケー、なでしこリーグなどに見られる。